

指導例 8

1 主題名 命のとうとさ

2 資料名 「黒島流れ」

3 ねらい

生命の大切さと生命が他の人々によって守られていることを理解し、進んで自他の生命を大切にしようとする心情を養う。(3-(2) 生命尊重)

4 主題について

(1) 価値について

命は一人の人間にとって、たった一つのかけがえのない大切なものである。と同様に、他の人にとっても命は大切なものである。人間は一人では生きていけないこと、他の人から守られ、支えられて生きていること、また、自分自身も他の人の命を守り、支えていくことを知らなければならぬ。その行為は崇高なものであり、尊敬すべきことである。

(2) 児童の実態

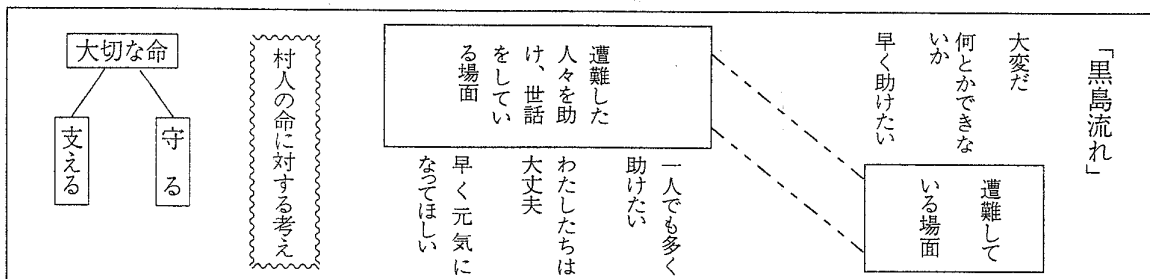
高学年の児童は、命は大切なもの、かけがえのないものであることを知っている。しかし、多くの児童が日常そのことを意識して生活しているわけではない。逆に、生命を軽視するような言動が見られる。これは社会の変化(生命を軽視するような風潮、生命にかかわる体験の減少など)が大きく影響していると思われる。

このような中で、この期の児童に命の尊厳に気づかせ、命の尊さを理解し、命あるものを大切にしようとする心情を養う必要がある。

(3) 資料について

本資料は、黒島の村人たちが台風で遭難した枕崎の人々を救助し、協力し合って、献身的に世話をし助けたという実話である。今から約百年前、厳しい生活を営んでいた村人たちが、なぜ、貴重な米や衣服などを出し合っても、30名余りの命を助けようとしたのか、その心情に十分共感させたいものである。自分や自分の関係する人のことしか考えなくなっている現代社会の風潮の中で、忘れてはならない人間的な、崇高な行為に十分にふれさせ、命の尊さ・かけがえのなさに気づかせることを通してねらいとする価値をつかませたい。また、本資料は他の価値(尊敬・感謝、敬虔、助け合い、思いやり・親切など)での活用も期待できる。

5 板書例



6 引用・参考文献

三島村郷土読本「ふるさと三島」より 片泊に伝わる「養生米」の話(紙芝居)
枕崎市誌 枕崎市立立神小学校創立80周年記念誌

7 展開例

過程	主な学習活動（・子供の意識）	指導上の留意点
導入	<p>1 台風の恐ろしさや被害の大きさなどについての説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちが体験した台風のこと ○ 昔の大きな被害をもたらした台風のこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が体験した台風の様子や心情を発表させる。 ○ 伊勢湾台風やルース台風などの様子を紹介し、台風下の状況をつかませる。
展開	<p>2 資料「黒島流れ」を読み、主人公（村の人々）が自分たちの生活を犠牲にしてまでも、遭難した人々を救おうとした行為や心情について話し合う。</p> <p>(1) 資料を読んで、どんなことを思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人があつという間に亡くなったんだ。 ・ 村の人々は人の命を助けるために何もかも投げ出してがんばったんだ。 <p>(2) 台風で船が海にのみ込まれていく様子を島から見ていた村の人々はどんなことを思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早く助けたいけど、どうすることもできない。 ・ 早く台風がおさまらないか。 <p>(3) 村の人々はどうして、大切な米や衣服を出し合ってもけがをした人々を助けようとしたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人でも多くの人を助けたい。 ・ 早く元気になってほしい。 ・ わたしたちの生活は何とかなる。それよりもけがをしている人のほうが先だ。 <p>(4) わたしはどうしてこれから始まる交流が楽しみになったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 命ってこんなに大切にされているんだ ・ 村の人々に感謝したい。 ・ 命を大切にしないといけないな。 <p>3 命を助けられた経験、命を助けた人の話を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故やけがをしたときに助けられた。 ・ 近所で火事があったときに、みんなで協力して逃げ出した人の世話をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の内容に十分ひたらせ、感動的な取り扱いをする。 ○ 初発の感想を発表させ、児童が資料のどこに感動したのかを知り、発問につなげる。 ○ 荒れる海にのみまれ、岩場にくだける船の様子を見ていた村の人々の何もできないあせり、悔しさ、もどかしさなどをつかませる。 ○ このころの苦しい生活の様子、「養生米」が大変貴重なものであったことなどを知らせ、だからこそお互いに協力し、助け合って生きていたことをとらえさせる。 ○ ワークシートに村の人々がどのような気持ちであったのかを表現させる。 ○ わたしが先生の説明を聞いて感じたことを話し合わせることによって命を大切にしようとする心情を高める。 ○ 直接体験をできるだけ引き出し、体験のない児童には間接体験を出させ、命の尊さを共感させる。
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の身近にある話や教師自身の体験談などから、命の尊さをとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の身近な話が効果的であるがない場合は他からさがし、命の尊さと命が多くの人々から守られ、支えられていることを話す。